

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	再生原理の理解にもとづいて四肢再生を惹起する
研究代表者	阿形 清和（学習院大学・理学部・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、イモリとカエルやマウスの再生能の違いに着目し、四肢再生機構の本質に迫る意欲的なもので、応募者の優れた研究実績とそれに基づいた仮説が魅力である。発生生物学的には、ソニック・ヘッジホッグ (Shh)に焦点を絞り込みすぎていること、イモリ特異的なエンハンサーの解析が十分とは言えないことなど問題点は残っている。一方、少なくともカエルにおいて再生不能となる要因の解明は十分に期待でき、特にマウスで解明できた場合のインパクトは極めて大きい。</p> <p>プラナリアは、種によって再生ができるものとそうでないものが存在する。本研究は、プラナリアの中でも再生不能と言われてきた種に対し、再生を起こさせるなど当該分野をリードしてきた研究者の新たな挑戦であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>